

4 木材の基礎知識

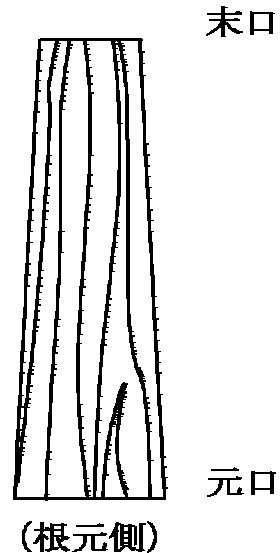
(1) 木材各部位の名称及び特性

木材は、それぞれの部位によって名称が定められており、それぞれに以下のような特徴（特性）をもっている。

元口、末口

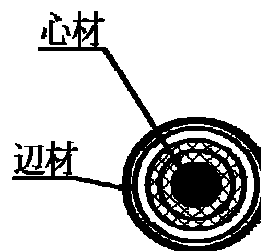
木材は、成長の過程で根元が大きく先端に行くに従い細くなっている。

その幹の根元（大きい）部分を元口といい、梢（小さい）部分を末口という。



心材、辺材

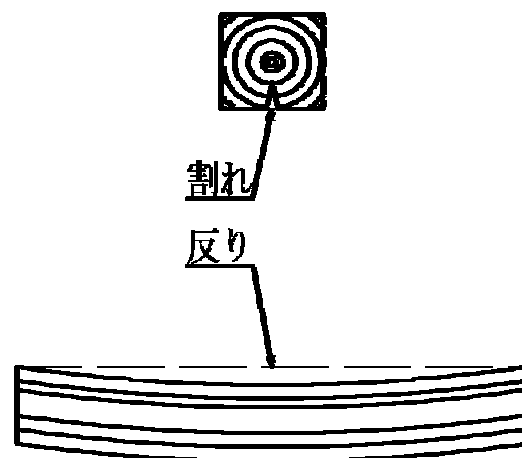
樹木を輪切りにした場合に、木口面の中心部の色の濃い部分を心材と言い、周辺の色が薄い部分を辺材という。



割れ、反り

木材は、乾燥する際に細胞内の水分が発散する。このことにより、水分を失った細胞が急激に収縮を行う。そこで木材は割れを生じたり、反りを生じたりする。

しかし、割れや反りを生じた木材においても強度の低下はないものと考えて良い。



平成13年版森林土木木製構造物施工マニュアル(P285)から引用

(2) 丸太等の種類

丸太等の場合は、加工の段階によって、次のような種類があり、用途により防腐処理などを行なって利用される。

皮付き丸太 < 皮剥丸太 < 加工材の順で、加工の度合いが大き
く、 と 、 の違いは、樹皮の有無である。

皮付き丸太

皮がついた状態の丸太（加工していない原木）。皮剥をした丸太に比べて腐朽しやすい。

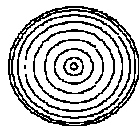
皮剥丸太

原木の皮を剥いだ状態の丸太。元口・末口の径の差がある。

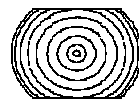
加工材

皮剥丸太を加工して、他の形状にしたもの。径や厚さ等をそろえることができる。

- a. 丸棒加工材：丸太をロータリー加工して、円柱に仕上げたもの。元口と末口の径が同じである。
- b. 太鼓落し：丸太の両端を削って断面を太鼓形にしたもの。二面を平面とし、厚さをそろえることができる。
- c. 半割：丸太を二つ割したもの（断面は半円となる）一面を平面とする。
- d. 三面落し：三面を削って平坦としたもの。三面を平面とし、厚さをそろえることができる。
- e. 押角（おしかく）：四面を削り、角には丸みが残っているもの。四面を平面とし、幅・厚さをそろえることができる。
- f. 先削り（先端仕拵え）：杭丸太とするもの。



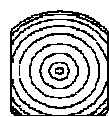
a. 丸棒加工材



b. 太鼓落し



c. 半割



d. 三面落し



e. 押角